



しらうめようちえん

園だより 2022年度第①号

白梅学園大学附属
白梅幼稚園
2022年4月13日発行
小平市小川町1-830



子どもの奮闘ぶりに学ぶ

園長 本山 方子



ご入園、ご進級、おめでとうございます。

新年度になり、子どもたちは環境移行を経験します。年長さんは保育室や担任が違って、クラスのお友だちのことはよく知っているので、環境移行が新しい挑戦への意欲をかきたてるのがしばしばあります。年中さんや年少さんは、新しい保育室、初めての先生、これまでとは異なるお友だちの顔ぶれに、少なからず戸惑うことがあるかもしれません。所在なげに部屋のなかを巡って、何がどこにあるか端から確認する子、目の前にある馴染みの遊具で遊び始める子、座り込んでじっとしている子、見慣れない部屋では落ち着かないので勝手知ったる園庭を駆け回る子、なかなか部屋に入れない子など、年度初めの過ごし方には子どもの個性が顕れます。それは、その子なりに奮闘している姿でもあります。

人生では何度も環境移行を経験します。入園・入学や就職、転居、一人暮らし、留学、愛する人との暮らしなど、新しい土地で初めての人と出会うことを繰り返します。そのたびごとに、少しの戸惑いと少しの勇気と挑戦を経験して、新しい生活を馴染みある生活へと変えていきます。この時期の園児は、人生の初期の環境移行を自らの力で切り抜けようとしています。その経験から、環境移行への不安や恐れとの付き合い方を少しずつ学んでいるところでしょう。

しかし、大人からすればその姿は頼りなく、叱咤激励のつもりで次のように言ってしまうことがあります。

「いつまで座ってるの？ ほかのお友だちは遊んでいるのに。」

「使いもしないのに、どうして片っ端から物を出して散らかすの？ 片付けられないでしょ？」

「どうして同じことばかりするの？ そうなることは分かりきっているでしょう？」

「ぐずぐずしないで。人より遅れてばかり。先生のお話し、聞いているの？」

子どもはうまく言葉にできないけれども、きっと理由があることでしょう。

ずっと座っているのは、部屋や友だちの様子をじっと観察しているのかもしれませんが。

物を全部出してひっくり返すのは、そこに何があるか、確かめたいのかもしれませんが。

子どもはよく同じことを繰り返します。次もさっきと同じようになるのかどうか、試しているのかもしれませんが。

一見、機敏でなくても、その子なりにそのクラスで過ごす時間の感覚をつかもうとしているのかもしれませんが。

子どもは子どもなりに、自分でなんとかしないとどうにもならないことに気づき、周囲の環境とうまく関わろうと奮闘しています。だから、自分を頼りないとはあまり思いません。

子どもは、子どもの時間や空間を生きていて、自らの足で歩んでいるところです。大人もかつては子どもでした。今は、子どもたちの歩みを応援していきましょう。